

2020年 7月31日(金)

みらいとびら 未来への扉



高等特別支援学校 支援部 第135号

社会性

さてさて、やっと夏休みですね。

今のご時世ですが、地元の海に泳ぎに行く人はいるかもしれませんね。昔、私がのんびり海で泳いでいる時に、何かがツンツンと体に当たりました。ワカメでも流れてきたのかと最初は気にしなかったのですが、違う場所に泳いでいってもツンツン当たってくるのです。しかも、とても優しいツンツンです。海の中をのぞくと、にゆるっとしたカワイイ黒い魚2匹と目が合いました。

「……あ、間違えた。」とでも言いたげです。

どうも、私は大きな魚に間違えられたようです。

ホンソメワケベラという魚をご存じですか？他の魚に付いたゴミや寄生虫を食べておそうじする魚として、海水魚ファンにはおなじみです。だいたいオスとメス2匹ペアになって夫婦仲よくクエ



やハタなどの巨大な魚のおそうじをします。大きな魚はそうやってエサもくれるし、一緒にいる時は他の危険な魚に襲われる事ありません。ホンソメワケベラにとってはよいことだらけです。

ところがおもしろいことに、ホンソメワケベラは、実は寄生虫がそれほど好きという訳ではないようです。本当は、その大きな魚が体を守るために出すネバネバした粘液を食べるほうが好みなのです。しかし、粘液ばかり食べすぎてしまうと大きな魚はそのホンソメワケベラを見捨てて泳ぎ去ります。つまり、失業しないように仕方なく寄生虫も食べているのです。

とくにペアでいる時には、自分が粘液を食べることで、自分は

おいしい思いができますが、2匹一緒に失業をしてしまいます。ペアには一方的に迷惑をかけてしまうことになります。

この点に目を付けた偉い学者先生は、一匹でそうじしている時とペアでそうじしている時で、粘液を食べる割合を比較してみました。すると、ペアでそうじしている時は粘液を食べる割合は少なく半分くらいになっているのが分かりました。

体長10cmほどで、もちろん脳ミソも小さく、2、3年しか生きられないホンソメワケベラです。本当は何を考えてペアがいる時いない時で行動を変えるのか想像のしようありません。でもまるで「気遣い」や「思いやり」を感じます。

学者先生はさらに実験を続けました。水槽で飼っているホンソメワケベラに「エビ」と「サメ肉」を同時に与えました。すると、1匹の時は「エビ」を好んで食べるのですが、2匹でエサを分け合う時では「エビ」を食べる割合が減って「サメ肉」を選ぶことが多くなるのが分かりました。

確かに、私達ニンゲンも自分ひとりの時と、他の人という時と行動が違います。その行動も年齢とともに変わってきます。

これから夏休み、お盆の時期に親戚が集まってごちそうを食べることもあるでしょう。幼いこどもの頃は好きなものばかり食べていたかもしれませんが。刺身の中ではぷちぷちしたイクラばかりとか。オードブルでは他のものには目もくれず、カラアゲばかりとか。

しかし、本校生の年代になると、少し様子が変わってくるようですが、どうですか？好きな食べ物ばかり食べる小学生のイトコを目の前にして、どんな様子でしょうか？

負けじと自分も好きな食べ物を食べ続けるのか？それとも、そんなイトコを見て、こんな子供じみた事をもう自分はしないと大人と同じような振舞いをするのでしょうか？どうしてよいか分からずに取り分けてもらったものだけしか食べられない生徒もいるでしょう。

多勢の人と会食する機会が減っています。今は仕方ないことですが、バイキングのように取り分けて食べるマナーなどは生徒達にとって簡単なことではありません。修学旅行や遠足でも学習と

してよく取り上げられていました。そのうち職場の人と歓送迎会などの会食をするようにもなるでしょう。お盆の親戚の集まりがよい勉強の機会にもなってくるのです。

気遣いなく食べるか？気遣いばかりで食べたいものをあきらめるか？このような両極端の2つのタイプは集団の中でいろいろな困難に当たります。そもそも会食の場が楽しくない。食べ終わったら、すぐ帰りたくなります。

会食の“食”の方でなく、“会”の方を大切にできたら、周りで楽しそうにおしゃべりしている様子も楽しみ、自分も楽しむために好きな食べ物も適度に手を伸ばすことができます。

夏休み明け、保護者の方々からうれしいお話を聞くことがよくあります。

「何をしたらいいですか？と聞いてよく手伝ってくれました。」
「親戚のおじさんから挨拶が上手になったとほめられました。」
「祖母の荷物を運んであげると手伝ってくれていたようです。」
等々。

ずっと一緒に生活している家族は気付かないことも、久しぶりにあう親戚の方の言葉で成長を感じることもあるでしょう。

以前の「未来への扉」でお知らせしたように、『日常生活や人間関係の中で適切な言動をとる実践的な力』であるソーシャルスキルの成長が感じられたら、生徒の生きる力に直結していきます。

夏休み明けにはひとまわり成長して、たくましくなって学校に戻って来てくれることを楽しみにしています。

そうそう、さっきのホンソメワケベラの実験をした学者先生は、本来魚のことを研究する学者ではなく、人間の協力とか社会性を研究する学者さんなんだそうです。

ホンソメワケベラは須磨水族館で会えるそうですよ。最近、身だしなみを鏡で確認することもできる賢い魚として有名になりました。私を掃除してくれようとしたこんな賢く、カワイイ魚にもご注目ください。

